



あじさいⅡ



鹿角手をつなぐ親の会
情報誌
平成30年1月・第21号

「鹿角市元気フェスタ」に喫茶店を！

9月の第3日曜日(17日)に恒例の鹿角市元気フェスタが開催されました。天高く・・・の秋日和にめぐまれ、来場者も老若男女を問わずいつもの年より多く、参加団体のひとつとしても開催前から気合いが入りました。

親の会では今年も、あんず部会員が運営主体となって喫茶店を開きました。会員のみなさんは仕事の合間を縫い、家族の理解と協力を得ながら8月4日から食品衛生法に関わる細菌検査、営業許可申請、20日頃からはケーキ材料の買出し、ケーキづくり、紙コップなどの準備に携わっていただきました。

当日は、親の会の幹事や賛助会員、木村君、竹澤君も手伝い、更に花一中生のボランティア5名も応援してくれ、その笑顔や応接がお客様に喜ばれ、好評を博していました。

今年も、高杉さんからミズ玉(うわばみ草の茎玉)を提供してもらい、すぐに完売。また兔澤さんから出された栗とリンゴも売れて収入になりました。

広い会場の商品や展示物を見て回り、40名を超える会員の方々と会い、喫茶店に立ち寄りコーヒーを飲みながら一休みするよう勧めました。

笑顔の対応とこうした呼び込み効果もあって、売り上げが昨年より少し伸びましたので、本人活動支援資金とあんず部会の活動資金に分けて配分しました。

あんず部会の皆さん、前日の会場設営に協力してくれた皆さん、ボランティアの皆さんほか喫茶店に寄って支援してくださったみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



明けましておめでとうございます

感謝を込めて...

本年もよろしくお願い申し上げます

2018年 元旦

鹿角手をつなぐ親の会
幹事等役員一同



9月9日、3回目の幹事会を開催し、来年鹿角地区で開催される予定の第60回手をつなぐ育成会秋田県大会の地元実行委員会を立ち上げることとし、9月2日(日)に「ホテル鹿角」を会場とする方針も決定した。

これを踏まえ、翌10日にホテル鹿角を訪れて日時と使用する部屋等の予約を済ませた。更に、実行委員の業務分掌も会長一任とし、協力して大会を成功させるとの意思統一をした。

委員会の委員長には兔澤会長、副委員長には長橋、中村、柳沢の各副会長が就くこととした。

《業務分掌表》

総務部	財政部	印刷・製本部	本人大会(ともだちの会)
◎ 内藤新次	◎ 兔澤正文	◎ 高杉七郎	◎ 安保明
○ 船木定宏	○ 船木定宏	○ 中村鉄司	○ 松宮るみ子
成田牧子	安保明	小田島嘉子	成田牧子
松宮るみ子	長橋和子	木村光江	柳澤久二郎
板橋篤志	黒澤明美	湯瀬涼子	小笠原佳江
兔澤正文	柳沢千賀子		
<ul style="list-style-type: none"> ・スローガン、大会決議 ・講演、分科会等の企画 ・大会全体の進行管理 ・式典等の演出及び進行シナリオの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・収支予算の策定 ・補助金、協賛金、広告料の確保 ・その他財政管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催要綱、資料集の原稿を集・編集し、印刷の契約、校正 ・鹿角の観光パンフの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し合い、たのしみ会」と「社会見学」の企画

◎ は責任者 ○ は責任者を補佐する

受付、会場、接待等の業務については、まだ期日があるので新年度になってから人選する。

折々のことば

知らなかった？ お父さんは花粉症だし、お母さんはちくろう症だし、アイちゃんはダウン症。みんな大変なんだよ。

武田愛さんの母

仙台市立太白小学校に通う娘に、自分はダウン症なのかと訊かれ、母が返した言葉。だんだんみなとともに頑張れなくなるアイちゃんに戸惑う級友たちも、私は黄色、私は青と、人それぞれに自分を発色させる仕方が違うと考え、「にじ色」が組の合言葉になった。新聞記者・高倉正樹の『アイちゃん』のいる教室 6年1組に「にじ色クラス」から。

折々のことば

誰かを困らせちゃうようなことも、その人の魅力だと思えるんです。

佐藤啓太

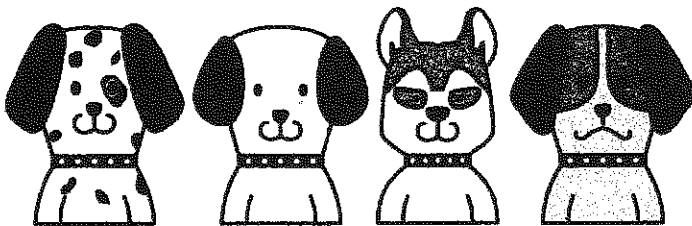
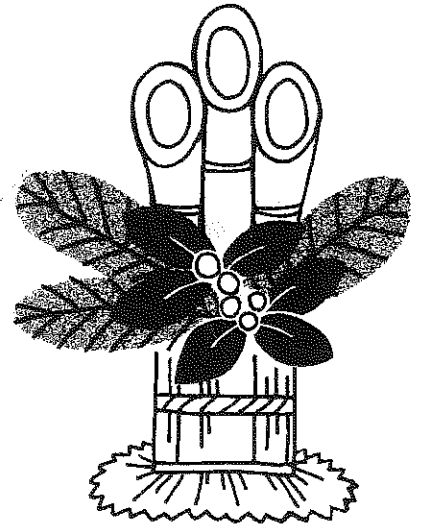
浜松市で障害福祉サービス事業に取り組むNPO法人クリエイティブサポートレッツのスタッフは、知的障害のある人、子ども、高齢者、我流の音楽家たちの入り交じる「オーディション」を開催した。それぞれの過剰なまでのこだわりが燃られて、「人生に一度ぐらい、スポットライトにあたってほしいじゃない」と呼びかけた。『雑多な音楽の祭典「スタ☆タン!!」記録集」から。

** 切り抜き帳 から **

埼玉の死亡事件、 誰にも気付かれない悲しさ

重度の知的障害者が送迎車内に置き去りにされて熱中症で亡くなった埼玉・上尾市の通所施設での事件の記事（9月号）を読み、昼食時に不在に気付いても誰も探さなかったというところで、本当に泣きました。誰にも注意を払ってもらっていなかったのですね。

私の息子も、数年前の真夏に同様の目にあいました。最後部に乗っていて、外から施錠されて閉じ込められました。幸い2時間程度で気付かれましたが、施設側は反省した様子もありませんでした。それどころか、同時期に別の利用者も閉じ込められる事件も起き、再発防止で導入されたチェックリストもしばらくすると使われなくなりました。保護者が施設側と建設的に話しあうことの重要性に反対はしませんが、問題は実際にそれができるかどうかです。個別支援計画の作成ですら相談の時間もなく「書類を送るから同意の印鑑を押して返送して」といわれるほど。多忙さを根拠に時間がないと言われれば、保護者も一方的な非難で終わってしまいがちです。常に細心の注意と配慮を要する仕事であることを行政から指導し、障害者団体等からも要望しつづけることが必要ではないでしょうか。



■ 知的障害の子に保険金

みずほ信託銀行は、知的障害者を子に持つ親向けの信託商品「生命保険信託（未来あんしんサポート型）」を1日から取り扱う。保険金が知的障害がある子の生活資金として毎月振り込まれるのに加え、財産管理の「指図権者」として、親族に加えて障害者施設も加えたのが特徴。

障害児が自立できるようにして

（神奈川県 51）

私は小学生の時にLD（学習障害）だった。国語、算数はまったく意味がわからず、100点満点のテストで常に10点ほどだった。でも、ダンスと歌が大好きで、先生に褒めてもらったことを今でもよく覚えている。

校長と担任と母が話し合い、中学は希望すれば全員が入学できる私立に入っ

た。高校卒業までの6年間、のんびり学習するうちに、掛け算や漢字の書き取りも出来るようになり、その後、保育士の国家試験にも合格した。

適切な環境さえあれば、こうして自立して暮らせるようになる障害者がいることを知ってほしいと思う。いま障害がある子どもたちも、ゆへゆへは自立できるように、行政が十分な予算措置をし、方策を考えてほしい。

ダウン症の娘は「人生の師」

(東京都 42)

った時、その「当たり前」が全部覆れました。でも、覆れてよかったのです。

娘がダウン症と知った時、本当に驚き、悲しみまじった。でも、娘がもたらしてくれた出会いが、私を成長させてくれました。そして「この子は人生の師なんだ」と気づきました。

人は年を取り、体が不自由になり死んでいく。そのことを忘れ、「何不自由ない毎日が当たり前のように嫌々」と思っている人は多いのではないのでしょうか。

だから感謝もしない。恵まれた環境にも元氣な自分の体にも。私もそうでした。

私にとって娘は誇り。彼女がくれた全ての出会いと優しさに感謝です。

障害ある娘と施設に入りたい

(埼玉県 73)

長女は49歳の重度の知的障害者です。私と夫はもうすぐ後期高齢者。長女が障害児と分かった時から「親が亡くなったらこの娘はどうなるのか」と考えてきました。年をとるにつれてその想いは高まる一方です。

次女は結婚して離れて住んでおり、負担をかけたくはありません。地元施設への入所を希望していますが、国は入所施設よりグループホームの整備に重点を置いておられるので、空きは出ません。グループホームは、長女にはレベルが高くて入居は難しく、親が死ん

だあとの終のすみかにはなりません。国はグループホームでは対応出来ない重度の障害者がいることも分かっているので、入所施設の整備をお願いしたいと思えます。

一方、各地に有料老人ホームが次々と造られています。少しづつお金がかかってもいいから長女と一緒に入れる有料老人ホームがないかと、色々問い合わせてみましたが無理でした。

障害のある子を持つ高齢の親は増えていくと思えます。介護保険制度と障害者自立支援制度をうまく組み合わせるなどして、有料老人ホームと一緒に入れるように検討してもらえないでしょうか。

障害児教育

回答者

元特別支援学校担任

中野龍太郎さん

Q 私は10年前に離婚して2人の子ともを育ててきました。

萬一の娘は軽度の知的障害があり、特別支援学校に通っています。最近高3の男子が「もっともなごうよ」「もっと勉強しろ。運動しろ」と娘を怒鳴るような発言を繰り返した。「お兄ちゃんはおお兄ちゃんだったのに」と口説いてくれます。

A 万が一の娘の様子を詳しく見てほしいです。

特別支援学校に通う妹を「高3の兄が怒鳴り口説く」

ですが、あまり運動していません。帰校後はテレビの前でニコニコしていることが多いです。

男子は大学進学を目指していません。最近「やせろ」といって腹筋でもこらして「もっと頑張れ」と怒鳴り散らすので、娘は

「お兄ちゃんに怒られる。嫌です」と言っています。

A 娘の様子を詳しく見てほしいです。妹が怒鳴っているのは、妹が

「お兄ちゃんに怒られる。嫌です」と言っています。

乱暴ですが、妹が「もっとしっかりして欲しい」といっているのではないのでしょうか。

Q 息子は何も話してくれません。今更には問題ありませんが、

A 2人とも高校生です。将来について考えたり、いざいざと試行錯誤したりする時期です。

進路や親と今後の問題、自分の将来や結婚など不安をたくさん抱えているのではないのでしょうか。

あなたとの話し合いで不安を軽減できれば、家族の信頼関係が深まると思います。兄妹の関係も改善するでしょう。

娘さん自身、放課後等デイサービスに通うなどして充実した時間が過ごせるのではないですか。家族の人がそれぞれ自分らしい生活を送れるように、環境を整えてあげたいと思います。